



穴をあけて綴じてください



大田区の文化財指定の狛犬——左側の呵形は耳を付け、高さ約45cm、胴の長さ約50cm。右側の吽形は角を3つ付け、高さ約45cm、胴の長さ約52cm。

お祭りは6月3日(土)・4日(日)

一年ぶりに今年のお祭りは6月3日・4日と決定。神社の二之神輿が、宮本、仲四、高畑、西二、西一、仲一、仲二、仲三、東三の順に渡御します。宮出しは4日午前8時30分、宮入りは午後4時30分の予定です。

こども獅子舞は神楽殿で演舞します。3日は午後2時30分と5時30分からの2回、4日は午後1時、3時、5時30分からの3回。なお、崇敬会養成の若人たちが、六郷ばやしを境内の棧敷で演奏します。

崇敬会では両日、拝殿脇に会員記帳所を設けます。ご参拝の節お立ち寄りください。平成7年度の会費払い込み、新入会員の受け付けもいたします。

新社務所竣功祭は7月23日(日)

新社務所の建設工事は滞りなく進捗し、7月23日(日)めでたく清祓式・竣功祭および祝賀披露宴が執り行われる運びとなりました。これにさきだち、旧社務所はお祭りの直後に解体され、境内の整地が行われます。

六郷神社崇敬会
平成6年度決算報告書

(1)収支計算書 (平成6年4月1日から
平成7年3月31日まで)

収入の部		円
前期繰越	金	300,387
個人会費	費	1,815,000
法人会費	入	610,000
雑収		81,561
合 計		2,806,948

支出の部		円
六郷神社協賛	金	554,300
会報発行費(第10.11号)		567,530
事務費		172,320
通信費		208,250
会議費		219,527
郵便振替	払込	25,690
消耗品	費	181,895
渉外	費	230,900
催事	費	117,198
雑費		20,190
次期繰越	金	509,148
合 計		2,806,948

(2)資金残高内訳 (平成7年3月31日現在)

郵便振替貯金	16,235
城南信用金庫定期預金	300,000
同 普通預金	153,500
現金	39,413
合 計(次期繰越金)	509,148

【註】前期末協賛準備金累計額金77万円は、当期において社務所新築寄付金100万円に充当、取崩しました。(差額金23万円は、当期六郷神社協賛金に含まれています。)

監査報告書

監査の結果、上記平成6年度決算報告書は、正確であることを認めました。

平成7年4月22日

監事 代田 秀雄 ㊟
監事 桑原 静 ㊟

- 四、会員懇親会
3. 役員改選の件
- (1) 報告事項
平成6年度会務及び事業報告の件
- (2) 審議事項
1. 平成6年度(平成6年4月1日から平成7年3月31日まで) 決算報告書承認の件
2. 平成7年度(平成7年4月1日から平成8年3月31日まで) 事業計画(案)及び収支予算(案)承認の件

7月30日
第6回 定期総会にご出席ください

第6回定期総会を左記のとおり開催いたしますので、ぜひご出席ください。また、ご案内申し上げます。なお総会終了後、会員の懇親会を行います。

記

- 一、日時 平成7年7月30日(日) 午前10時30分
二、場所 大田区東六郷3-10-18 六郷神社新社務所
三、会議の目的

平成6年度の会
務及び事業報告

平成7年3月31日現在、本会の会員数は個人77名、法人80社と、前年度に比べて微増していますが、さらに一層の会員増強が望まれます。

本年度は、常任理事会を9回、理事会を1回開催して会の運営を図り、会報も第10号、第11号を発行いたしました。実施事業の一部はすでに会報でお知らせしましたが、主なものを列挙すれば次のとおりです。

平成6年4月1日 第47回つたち早朝ま
いり。講話「六郷土手の桜並木」(平野
順治)

5月1日 第48回つたち早朝ま
いり。講話「西六郷一丁目界隈」(杉山 弘)

5月30日 会報第10号発行。

6月1日 第49回つたち早朝ま
いり。講話「六郷幼稚園の設立と現況について」

(鈴木宮司)

7月1日 第50回つたち早朝ま
いり。講話「関東大震災と震災児」(森田賢治)

7月10日 第5回定期総会を午前10時30分

より六郷神社社務所で開催。終了後、会
員懇親会を行う。

8月1日 第51回ついでたち早朝まいり。講話「高野辰之の唱歌『ふるさと』について」(森 繁春)

9月1日 第52回ついでたち早朝まいり。講話「幼き日の思い出——防災の日に寄せて」(前嶋唯七)

10月1日 第53回ついでたち早朝まいり。講話「私の健康法」(梅沢喜代造)

11月1日 第54回ついでたち早朝まいり。講話「沼津御用邸記念公園の献上風復元に ついて」(平野順治)

11月9日 武蔵小金井の江戸東京たてもの園、サントリー武蔵野ビール工場のバス見学会。41名参加。

11月27日 六郷水門付近の干潟で野鳥観察会。指導は簡 典久、坂本節子の両先生。36名参加。

12月1日 第55回ついでたち早朝まいり。講話「国定教科書での出雲大社について」(宮崎 豊)

12月20日 会報第11号発行。
平成7年1月1日 歳旦祭に清酒2斗樽を奉納。氏子青年会の手で初詣客に振る舞われる。社務所に献花。

1月3日 会員初詣昇殿参拝。神社からは神酒と「一陽来復」の御守が授与され、崇敬会では御供物と甘酒を進呈。320名。

1月7日 第18回六郷のどんと焼きに役員10名手伝い。

2月1日 第56回ついでたち早朝まいり。講話「初代の氏子青年会会長として」(中村幸雄)

3月1日 第57回ついでたち早朝まいり。講話「市民消防隊の役割とその訓練」(須山温夫)

平成7年度事業計画(案)

(1) 六郷神社ついでたち早朝まいり(定例)

昇殿参拝後、会員が交替で10分以内の短い講話を行っています(元日を除く)。どなたでも自由に聴講できますし、また進んでお話をしていただきたいと思えます。話題はとくに限定しておりません。お話をしてくださる方は、お早目に社務所へお申し込みください。

7月より10月まで 午前6時
11月より6月まで 午前7時

(2) 六郷地区戦没殉難者追悼式と添釜

戦後50年に際し、平和の礎となった戦没者・殉難者の追悼式を、創立記念日の11月3日に忠魂碑前で行い、平和の誓いを新たにします。六郷地区戦没者遺族会との共催です。なお追悼式に引き続き、大日本茶道協会のみなさんの奉仕により、添釜(野点形式の茶会)を境内で行います。

(3) 六郷ばやし復活の助成(継続)

崇敬会養成の若人たちが、鈴木時直氏の笛のリードで練習をかさね、お祭りの日には境内の棧敷で、7月23日には新社務所竣功祝賀披露宴で、10月21日には六郷小学校開校120周年祝賀会で、六郷ばやしを演奏する予定です。

(4) 鈴木宮司昇進祝賀会

神職身分二級上に昇進された榮譽をたたえ、この秋に、崇敬会では神社役員、氏子青年会との共同で、祝賀会を開催したいと計画しています。

(5) 平成8年1月3日六郷神社初詣

第1回昇殿参拝 午前10時30分
第2回昇殿参拝 午前11時30分

(6) 崇敬会会報第12・13号発行

(7) 崇敬会名入りの絆天作成

(会長・森田賢治)

六郷神社崇敬会 平成7年度収支予算案

(平成7年4月1日から平成8年3月31日まで)

収入の部		円
個人	1,830,000	
法人	650,000	
会費	200,000	
雑収入	509,148	
前期繰越	509,148	
合計	3,189,148	
支出の部		円
六郷神社協賛	800,000	
備品	150,000	
会報発行費(第12・13号)	600,000	
事務費	180,000	
通会費	220,000	
郵便費	220,000	
消耗品	30,000	
渉外費	150,000	
渉外費	250,000	
渉外費	400,000	
雑費	20,000	
雑費	169,148	
合計	3,189,148	

天祖神社の神体

平野順治

六郷神社社務所の前庭に置かれている狛犬（口絵カラー）は、独特のユーモラスな姿をしており、その造形の豊かな芸術性とともに、区内でいちばん古い狛犬として、大田区の文化財に指定されています。

ク塀にそった植え込みの中に立っています。像の高さは四十一センチ、硬質の伊豆石を台座ごと丸彫りしたもので、思わず合掌したくなるような明澄な姿をしています。

この狛犬は、貞享二年（一六八五）に八幡塚村中町の有志が寄進したもので、台座の銘から石屋・三右衛門の作であることがわかります。三右衛門は、多摩川中下流域に点在した江戸時代の石屋の中では、最も古い石屋ですが、遺作としてはもう一つ、仲六郷四丁目の東陽院に、元禄三年（一六九〇）の兩宝童子像が残されているだけです。この石像は、鐘楼脇のブロッ

雨宝童子とは、「両部神道で

天照大神が日向に下生した時の姿といい、また大日如来の化現したのもという。右手に宝棒を、左手に宝珠を捧げる童形の像。『広辞苑』のことで、東陽院の石像も、そうした形相をそなえています。それだけではなく、像の背面中央に、天照太神宮本地金胎両部大日の文字が彫られ、その左側に、元禄三年庚午八月吉祥日 敬白とあり、左側には、

武州六郷八幡塚村 別当

東養院

と刻まれています。また台座の正面には「光明講同行廿四人」、左側面には「当神作」「三右衛門」と銘が彫られています。

これらの銘文からして、この石像は東陽院に直接奉納されたものではなく、東陽院が別当として造られたことが明らかです。ちなみに、幕府の編さんした『新編武蔵風土記稿』を調べてみると、八幡塚村の条に、

○天照太神宮 除地一畝五歩、八幡社（六郷神社）の東堤の下にあり、元禄年中の水帳に載せたれば、それより前の勧請なることは勿論なり、近き頃石像の神体をつくりて、小祠の中に安ず、中略、堤の下に鳥居をたつ、村内東陽院持

と記されており、雨宝童子の石像が神体として造られたことを、はっきり物語っています。おそらく明治初年の神仏分離の際に、その姿が僧形のため、別当寺の東陽院に移されたものではないでしょうか。

南六郷三丁目にあった天照太神宮（天祖神社）はその後、六郷神社に合祠され、今は境内末社として毎年九月二十二日にお祭りが行われています。

◆鈴木祐一氏、禰宜に就任

太宰府天満宮で7年間修行された鈴木祐一氏（宮司長男）が、このほど帰郷、六郷神社禰宜に就任されました。若々しい活躍が大いに期待されます。

◆茅の輪くぐり

6月30日の夏越の大祓には、社殿の正面に設けられた茅の輪をくぐって、疫気をはらい、健康と長寿を祈りましょう。

◆新入会員紹介

東一・酒井嘉市 東三・辻野宏
南三・春原静 仲三・大森雷二
西二・時田芳子

◆年会費納入のお願い

お手数でも同封の振替用紙で、平成7年度の年会費（平成7年4月1日から同8年3月31日までの分）を、お納めください。

発行：六郷神社崇敬会

〒144大田区東六郷三十一十八

六郷神社社務所内

電話 〇三・三七三・二八八九

振替 〇〇一九〇・六一二三五五三

編集：平野順治